

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 8 年 6 月 10 日

岩手県知事 達増 拓也 殿

提出者

住 所 岩手県陸前高田市横田町字志田実3-11

氏 名 株式会社 長谷川建設

代表取締役社長 長谷川 順一

電話番号 0192-47-5323

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 長谷川建設
事業場の所在地	岩手県陸前高田市横田町字志田実3-11
計画期間	令和8年4月1日～令和9年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06 総合工事業
② 事業の規模	前年度完工高 750,000千円
③ 従業員数	56名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	1, 廃プラスチック類 → 委託処理 2, 木くず → ①委託処理 ②自己中間処理（破砕）→ 委託処理 3, がれき類 → ①委託処理 ②自己中間処理（破砕）→ 再生利用 4, ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず → 委託処理 5, 廃石綿等 → 委託処理 6, 金属くず → 委託処理 7, 繊維くず → 委託処理

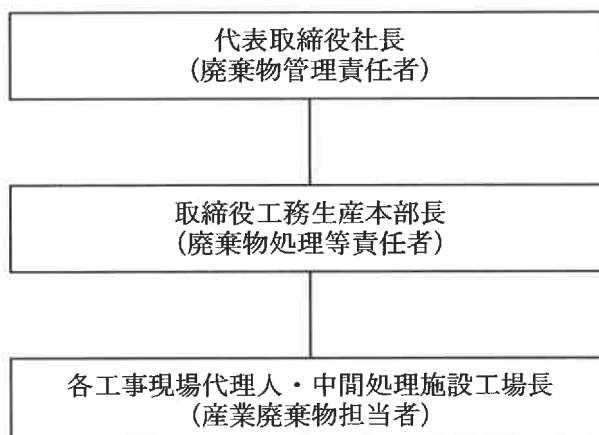
（日本工業規格 A列4番）



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず	がれき類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	金属くず	繊維くず	廃石綿等
	排出量	4.253t	156.34t	1679.862t	11.26 t	3.926t	1.99t	0.92t
	（これまでに実施した取組） 資材等は使用時期や使用数量を考慮した納入により余剰を削減するよう努めた。							
②計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず	がれき類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	金属くず	繊維くず	廃石綿等
	排出量	3.0t	100.0t	1000.0t	10.0 t	3.0t	1.0t	0.5t
	（今後実施する予定の取組） 現状の取組を継続する。							

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃プラスチック・木くず・がれき類・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず・金属くず・繊維くず・廃石綿等は混合物のないように各現場で分別した。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 現状の取組を継続する。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

	【前年度（令和 7 年度）実績】							
	産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	廃プラスチック類	木くず	がれき類	ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず	金属くず	繊維くず	廃石綿等
		0t	0t	1627.15t	0 t	0t	0t	0t
①現状	（これまでに実施した取組） 現場から発生したがれき類は、できる限り自社の中間処理施設へ収集運搬して可能な限り再生資源として再利用した。							
	【目標】							
	産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	廃プラスチック類	木くず	がれき類	ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず	金属くず	繊維くず	廃石綿等
		0t	0t	1000.0t	0 t	0t	0t	0t
②計画	（今後実施する予定の取組） 現状の取組を継続する。							

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず	がれき類	ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず	金属くず	繊維くず	廃石綿等
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0 t	0t	0t	0t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0 t	0t	0t	0t
	（これまでに実施した取組） —							
②計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず	がれき類	ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず	金属くず	繊維くず	廃石綿等
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0 t	0t	0t	0t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0 t	0t	0t	0t
	（今後実施する予定の取組） —							

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず	がれき類	ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず	金属くず	繊維くず	廃石綿等
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0 t	0t	0t	0t
	(これまでに実施した取組)							
②計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず	がれき類	ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず	金属くず	繊維くず	廃石綿等
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0 t	0t	0t	0t
	(今後実施する予定の取組)							

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず	がれき類	ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず	金属くず	繊維くず	廃石綿等
	全処理委託量	4.253t	156.340t	52.712t	11.260 t	3.926t	1.990t	0.920t
	優良認定業者への処理委託量	0t	0t	0t	0 t	0t	0t	0t
	再生利用業者への処理委託量	0.22t	0t	12.882t	0 t	3.926t	1.990t	0t
	認定熱回収業者への処理委託量	0t	0t	0t	0 t	0t	0t	0t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t	0t	0 t	0t	0t	0t
（これまでに実施した取組） 再生利用業者への処理委託に努めた。								

(第 5 面)

②計画	産業廃棄物の種類 全処理委託量	【目標】							
		廃プラスチック類	木くず	がれき類	ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず	金属くず	繊維くず	廃石綿等	
		3.0t	100.0t	50.0t	10.0t	3.0t	1.0t	0.5t	
		優良認定業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	
		再生利用業者への処理委託量	0.1t	0t	10.0t	0t	3.0t	1.0t	0t
		認定熱回収業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
(今後実施する予定の取組) 現状の取組を継続する。									
※事務処理欄									

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。